

第160回 山口県医師会生涯研修セミナー

令和3年度第2回日本医師会生涯教育講座

とき 令和3年9月5日(日) 10:00～15:00

ところ ホテルニュータナカ

特別講演1

「住民・行政・医療職協働の地域づくりと コロナ感染対策」

富山大学医学部富山プライマリ・ケア講座客員教授／

富山大学附属病院総合医療科名誉教授 山城清二

〔印象記：下関市 飴山 晶〕



すべては医療崩壊から始まった。市町村合併と2004年の新医師臨床研修制度が始まって、大学病院からの医師の引き上げなどにより、地方の病院の医師不足、看護師不足が深刻になった。富山県でも南砺市で市立の3病院、4診療所すべてで医師不足、看護師不足に陥った。

南砺市民病院の院長から連携依頼があり、一連の取り組みが始まった。報道、書籍等で他県の取り組みを調べ、対策は「人材育成」と「住民参加型システム」しかない結論付けた。住民が医療の現状を理解しないと医療崩壊は免れないこと、また、大学病院からの医師の派遣のみに頼っているのでは医師不足は解決しないこと、地域の病院で医師を育てることが必要だと考えるに至った。

最初の2年間は各地域を回って講演会を開催した。しかし、一方的なセミナーだけでは手ごたえが生まれず、参加者の反応も芳しくなかった。課題と目標は明確になったが、方法論があいまいで、具体的なスキルがなかった。

2009年、まずは住民参加型人材育成として、「マイスター養成講座」と銘打ち、住民、行政及び専門職の連携を目的としたワークショップを開催した。北陸先端科学技術大学院大学で開催されていた「地域再生システム論講座」を参考にした。

石川県の地場産業の復興目的に、地場産業の担い手と大学院の先生がともに勉強していたのを参考に、「地域医療再生マイスター講座」と銘打ち、医療人マイスターと住民マイスター（コミュニティー・ヘルス・ランナー）の育成を開始した。

マイスターは各々の立場で地域医療再生のために活躍し、お互いが連携した地域住民参加型の医療システム構築を目指すと位置付けた。具体的には5回の講座を開催、1回あたり2時間半、2週間ごとに集まった。1回目は総論と各論、2～4回は各論、最終回は発表会とした。

「政策科学」というサイエンスを使って、地域の課題に取り組むという手法を使うことにした。講義と討論で成り立っているため、参加者の積極的な態度が重要である。方法論は決まったが、成功するかどうかは不明であった。

地域包括ケアシステムの構築を目指し、10年間で1,000人余りの住民参加を得て、ワークショップを展開した。南砺市、富山市、朝日町、飛騨市、高岡市において10年間取り組んだ

10年間の取り組みの成果

- ①地域医療再生マイスター養成講座・・・10年間で428名のマイスターが誕生
- ②「南砺の地域医療を守り育てる会」の設立・・・

年3回、計30回の開催

③いろいろな地域、立場で、各グループの活動が行われた。

④行政－住民－医療者の連携・・・地域包括ケアシステム構築の拠点が形成された

人材（医師）養成目的で、南砺市民病院に初期研修プログラムを立ち上げ、次に後期研修プログラムも立ち上げた。地元出身の医師が病院に残るようになり、総合診療医養成のプログラムができたことで、総合診療医を目指す若い医師も定着した。歯科口腔外科も新設され、2008年には15人だった常勤医数が2018年には倍以上に増加した。

訪問看護師の勉強会も立ち上げた。地域では訪問看護に対するニーズが高まっていたが、スキルアップのチャンスに恵まれていなかった。年2回、大学病院に集まってもらって研修会を開催したところ、当初は3人だったのが48人まで参加者が増えた。

参加者を増やすことだけでは実際には事が進まないということがわかってきて、次の段階として、実際に動く人、地域の生活の基盤を支える・変革する人材（リーダー）の養成が大切だとわかった。

「地域共生社会に貢献する」という理念を基に、2019年、「コミュニティー・メディカルデザイナー養成講座」というものを新たに立ち上げた。

少人数で、やる気のある人だけを集めて、それぞれの地域で各5回のワークショップを展開した。デザイン思考の専門家や地域包括ケアに精通した人、認知症ケアに第一線で取り組んでいる人など、さまざまな講師を招いた。終了時には発表会を開き、市長から参加者に終了証を手渡した。

これらの取り組みが評価されて、2019年7月、台湾の在宅医療チームから招待された。台湾も深刻な高齢化社会の進行があり、日本国内に何度も視察に訪れていた中で南砺市モデルを評価してくれた。台湾大学に招かれて「2025に向けた共生社会国際シンポジウム」を開催し、さらに台湾の地方都市にも招かれて、地域の人たちとのワーク

ショップも行った。

このような取り組みの中で、医療と行政と住民のつながりができた。「南砺市まるごと支え合い会議」と銘打って、月1回会議を開いている。地域包括ケア・・・地域共生社会をどのように作っていくか、地域のフレイル対策、地域の認知症対策・・・これらに注目した話し合いの場が続いている。

2017年3月、富山市内の小学校跡地に「富山市まちなか総合ケアセンター」（まちなか診療所）が4億円の建設費で竣工した。機能強化型在宅療養支援診療所であり、「病院から施設へ、施設から在宅へ」という人の流れを支援したり、10年もすると人口が頭打ちになる高齢者に特化するのではなく、障がいのある人たちや子育ての場面で必要となるケアを提供することを目的としている。

ケアの本質は何か？人をケアすることは自分の成長であるとともに、地域づくり、コミュニティー・デザインである。2040年に向けて何が重要なのか？・・・一つ一つ地道に取り組んで行くことが大切だ。

新型コロナウイルス感染症との関わり

2020年4月、富山市内の老健施設でクラスターが発生した。入院先が見つからず、施設内で感染者のケアを行わなくてはならなくなった。誰も手を上げないので、結果的に自分が中に入ることになった。それまでの行政との連携の深さや、多職種連携の中で培われた介護職との付き合いがあり、またこの老健施設が「富山市まちなか総合ケアセンター」の近所に位置していたこともあり、ためらう気持ちはなかった。

約1か月間にわたりフルPPE装着で中に入っていた。その後は地域自治会の役員や住民代表の方に経過報告と今後の方向性を説明し、誹謗中傷が広がらないようなケアを行った。自治会役員の中には住民マイスターとしての縁がある方も多かった。7月には感染終息宣言を出し、地元住民にもアピールした。

富山市の歓楽街でクラスターが広がった際には、飲食組合や商店街の役員と協働し、それぞれの店に行って感染対策の指導を行った。その後もさまざまな介護施設で感染者が発生したが、その都度相談に応じることで協力した。

2021年8月には自宅待機患者が急増したため、保健所の依頼で往診を行い、入院が必要な症例を拾い上げ、入院につなぐ仕事をした。

第5波が落ち着いた今は、ワクチン接種に積極的に出務している。新型コロナウイルス感染症に関連した出務は、まさに「地域づくり」、「コミュニティー・デザイン」の一環である。

※同日の特別講演2、3については、本会報令和4年2月号(第1938号)の144～150頁に掲載済。

ドクターバンク (山口県医師会医師等無料職業紹介所)

医師に関する求人の申込を受理します。ただし、申込の内容が、法令違反その他不適切である場合には受理しません。

なお、医師以外に、看護師、放射線技師、栄養士、医療技術者、理学療法士、作業療法士も取扱います。

求人者又は代理人は、原則として直接当紹介所に赴いて、所定の求人票にご記入の上、お申し込みください。

ただし、直接来所できない時は、郵便でも差し支えありません。

求人申込の際には、賃金、労働時間その他の雇用条件を明示してください。

最新情報は当会ホームページにてご確認ください。

問い合わせ先：山口県医師会医師等無料職業紹介所

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1

山口県医師会内ドクターバンク事務局

TEL：083-922-2510 FAX：083-922-2527 E-mail：info@yamaguchi.med.or.jp

ともに、未来をつくる。

地域の豊かな未来を共創する



山口銀行

